

## 英文電子ジャーナルに賛成とお答えいただいた方からのご意見

和文誌には、学生、若手にとって読みやすい解説記事などを多く載せてはどうか？いろいろな事項について一通りの知識を持っていることは重要なので。cf. 「日本語と日本の科学」谷川清隆 天文月報 2003年8月号空中図書館 (<http://yso.mtk.nao.ac.jp/~tanikawa/index.html>)

英文電子ジャーナル創刊に大賛成です。

ぜひ推進していただきたいと思います。電子ジャーナルの目次くらいは1年に一回紙媒体で配布していただくとありがたいと思います。

問6に関連し、分野の判別がよく分かるような、雑誌構成にしてほしい。今後 Fusion technology 関連の論文が多くなることが予想されるが、そうするとプラズマ物理関連論文が海外有力雑誌へ投稿するという現パターンに戻りそうである。工学と物理の対立を煽るわけではないが、JPFR-Ph と JPFR-Tech に分離するほうが、それぞれの分野の読者をひきつける。一括されていると、かえって読者離れとなるであろう。

図書館にいく手間や時間に関係なく閲覧できるので非常に重宝している。ただ、電子ジャーナル化することで編集担当者や事務局の負荷が増えるのではないかと不安である。

(1) 他のアジア国との共同創刊について。アジア核融合学会の発足およびその活発な活動から見てそういう需要があると思います。ヨーロッパの Plasma Physics and controlled fusion がよい見本です。(2) 核融合だけでなくプラズマ物理を中心にすべきです。プラズマ物理を様々な分野に応用しています。一つの例として、天体物理はプラズマ物理の知識をなくしては新しい観測現象をますます説明にくくなっています。これも若いひとを核融合の分野に導く一つの方法だと考えます。From Hantao Ji, Princeton Plasma Physics Lab

英文のみ電子ジャーナル化を検討するのは不可解。英文和文あるいは現在の和英混在学会誌の電子ジャーナル化を考えてよいのではないかと。

もし英文誌を作るならば、徹底した特長を持たせるべき。速報性に絞ると、やはり、レターのように短くないとレフェリーが読む時間が長くなり、時間短縮にならない。理想的には電子化し、全てインターネット上で済ませることで速報性を重視する点に特化すべき。

核融合分野では当学会誌が唯一の発表の場になると考えますが(国内に限った場合)、プラズマ科学、プラズマ応用の分野では JJAP や J.Phys.Soc.Jpn, 学会誌がすでに存在します。これらとの関係をどう

考えるのか？競争するのか連携するのか？核融合分野に特化するのか？各学会が独自に発刊するのではなく、AIP や IOP 等のようにまとまらないものでしょうか？その方が利用しやすくまた国際的なインパクトファクターも大きくなると思います。

電子ジャーナル化は、昨今のコンピュータ犯罪やSPAM・ウィルスのトラブルを考えると、相応のセキュリティ管理体制やサーバー運営技術力が必要であるため、開始当初はコストアップになるかも知れません。しかしながら Google との連携強化などにより、格段に世界に対する露出が高くなるのでは期待しております。

(1) 学会として財政に無理のない範囲で行うことが必要。(2) 低くても(ある程度しかたがないが)インパクトファクターのついた雑誌にすることが必要。

新しいジャーナルの創刊は大変な労力が必要と思いますが、是非成功されるよう期待しております。

既に PRL,NF,POP,PPCF 等の著名な雑誌があるときに新たな雑誌を創刊するとなると、独創的なテーマが必要かと思います。例えば、JT60,JET,LHD,ITER 等の将来の核融合炉を目指した実験に対して Relevant な理論・シミュレーション、実験、工学に絞って論文を厳選する。あるいは、そういった研究で物理と工学の交流の場を提供するという方向性などが考えられるかと思いますが、これは、広く国内外の著名な研究者の意見を聞いて雑誌の目的を設定するのがいいと思います。雑誌を成功させる上で必須の条件は以下の2つかと思います。1.掲載料の無料化により上記の雑誌との競争力を発揮できると思います。また、このためには低コスト化を図る上で電子ジャーナル化をすることが必要です。2.クオリティコントロールの徹底化は雑誌の存亡に関わる問題です。広く内外の有識者にレフェリーを依頼する体制を確立するために、日本人以外のエディターで創刊するというのも一つの手かと思います。また、レフェリーは最低2人以上、査読期間2ヶ月程度がリーズナブルな設定かと思います。成果報告用、あるいは、学位取得用の低レベル論文量産の場となってしまうと誰にも見向きされなくなってしまいます。

基本的には賛成ですが、電子ジャーナルとなった場合に、最終的に何年くらいデータを維持できるのが心配です。また、現在のところ、電子ジャーナルの場合、Web で検索できないと意味がありませんので、いつでもデータを読めるようにしていただければと思います。

賛成です。他の論文で電子ジャーナルを使ってみました。電子データなので、検索の手間が省け重宝しています。

現在の学会誌は現状のまま、研究論文だけを完全電子ジャーナル化して発行することが望ましいと思います。

利便性、保存性などや時代的背景もあり、電子ジャーナル創刊には賛成です。

世界中の研究者の目に留まるようなジャーナルにしてほしいので、閲覧料はなるべく安く設定してほしい。個人で購読出来ないような価格帯では読んでもらえないと思う

電子ジャーナルの持つ“投稿しやすい”、“早く発行できる”という利点が、逆にジャーナルの質を落とす要因となり兼ねない恐れがある（と思われる）ので、投稿者には投稿論文の内容、表現とも質の高さを保つよう要請、指導するよう、また、学会側には閲読、編集、発行作業に細心の注意を払うよう努力していただきたい。

コスト的に可能ならば完全電子化でなく図書館などに配架する少部数製本との併用が望ましい。

アジアの研究者が投稿しやすい国際ジャーナル希望。全英文で PDF でダウンロードできる。インパクトファクタも2くらいほしい。

（和文誌を分離した場合）和文誌は毎月発行でなくてもよく、かつ論文は電子ジャーナル化するほうがすっきりと分離。

論文が結果的にどう評価されるのか（若手については人事査定、一般的には外部資金導入の際の査定ベース）が大きなファクタになります。研究内容によく精通してないひとは掲載雑誌のブランド力から自由になりにくいという悩みがある

急いだ方がよい

比較的小規模な学会であることの利点を活かして、積極的に新しいことにチャレンジしたほうが良いと思います。

学会誌が世界で通用する学術雑誌となることが第一目標。欧米からの投稿が日常的に起こるようにすることが目標。

basic plasma から fusion plasma まで、物理から工学までカバーしている英文雑誌はないのでは？新しい雑誌を作るのですから、既存の他の雑誌とは異なる視点から内容を構成していただきたいです。

是非進めて欲しい

しばらくの間は電子ジャーナルと平行して和文誌の後ろに印刷体をつけたらよい

英文原著誌の分離と電子ジャーナル化が可能となると、海外からの論文投稿も可能になるのではないのでしょうか。(会員外からの投稿が可能かどうか分からないのですが。)そうすると論文投稿数も増やせると期待します。細かいことですが、分離されたコミュニティー誌では掲載論文を巻頭で紹介していただき、また年1度でも論文をCD化していただくと助かります。

世界的に注目される論文誌が日本にあるということは意義深いと思いますので、英文原著論文誌を創刊することに賛成いたします。同時に、解説やレビューなどについては和文で読むことができると大変ありがたいと思います。コミュニティー誌も並存していただければ幸いです。出版コストが大変重い--とうかがっています。コミュニティー誌についても重要な連絡事項のみを掲載し、解説やレビューについては電子ジャーナルのみによるものとする--といった形でコストを抑える方向にいただければ幸いです。

上述した事と矛盾するかも知れませんが、真意は英文電子ジャーナルの発行に条件付で賛成です。さもないければ、現在の形態がよいと思います。条件とは、(1) 査読者を広く海外にも求め、質と量の確保を図ること。(2) 査読者との応答も含めてすべて英文の投稿とすること。(3) 掲載までの期間を短縮するため、現在の編集形態の見直しが必要(?)。

電子ジャーナルで重要だと思うことは、論文数を確保できるかどうか。投稿のしやすさがポイント。電子ジャーナルの利点は、カラー、動画などを気軽に入れられること、ただし、動画をどう査読するかの基準が必要。

電子ジャーナルであれば経費がかからないと考えがちだが、出版経費のかなりの部分は編集・組版経費であり、これは電子ジャーナルであっても同等に発生する。現状の体制で強引に電子ジャーナルを発刊すれば、一部の人(特に事務局)に多大な負担がかかることになる。編集・組版を外注するなり専任のアルバイトを雇用するなりして電子ジャーナルに関して発生する作業を補償し、それに要する経費を電子ジャーナルの投稿料および図書館収入でまかなえる体制を確立することが絶対に必要と考える。

日本国民から研究費を獲得して研究しているのであれば、研究発表(と研究評価)を国内専門誌で行うべきであろう。自分たちの研究の評価を外国人に依頼するのはいかながなものか。いつまでも二流に甘んじることになりはしないか。

編集のお仕事ご苦労様です。物理学会での講演会とプラズマ核融合学会での講演会のねじれ現象がまだ続いています。日本語での原稿の価値がなかなか見出せない状況ですので、英文誌を単独で作られるのも良いかと思いますが、JJAPや物理学会のJournalと共同で、良い英文誌を模索するほうが、現実的にはよさそうに感じます。